

《最近感じている事》

日々の新聞や週刊誌の

情報量の凄まじさ

と若者のマスメディアばなれの加速

(株) 人間と科学の研究所  
(株) 医工学研究所

所長

飛岡 健

## 最近感じている事 日々の新聞や週刊誌の情報量の凄まじさ

〈はじめに〉

最近のSNSの

発達は凄いが！

最近の若者はSNSを使って、自分の意識の向くままに情報を集め、気に入ればそれを他にに向けて更に発信し、フォロワーを増やしていく。2025年の参議院議員選挙ではそれを活用した政党が伸びた。そしてSNSやYouTube等を巧みに活用する人々は、ある分野に関してはヘタな専門家よりも関連する情報を収集し、よく知っている事が多くなっている。今や小学生レベルで本物の博士レベルの知識を身に付けているケースも多くある。ある面でドンドン自由に伸びていく人材を輩出するようになっていく。その意味では凄い時代だと思う。

しかしそこには問題も潜んでいる。重要なことは、情報の収集能力と共にその解釈力である。あるひとつの情報は、この世の中の全ての情報や知識は断片として存在するのではなく、全てが連動している。それ故に、断片的信息のみを収集してい



参議院議員選挙ではSNSを活用した政党が伸びた

ると、正しい全体像が出来なくなるし、時には情報洪水で流されてしまいが漂流している。時には溺れてしまいノイローゼになるケースも出てきている。

大切なのは、その点を理解することである。昔、構造主義言語学では「辞書の中のひとつの言葉は、辞書全体の中でその意味を発生する」との認識をテーゼとしていた。確かに学生時代、英語の単語の意味を調べようとして辞書を開き、該当する単語の箇所を探すと、そこには幾つかの複数の意味が書かれていて、その中の単語を更に調べると再び複数の意味が現れる。そこで更に進めていくと、結局辞書全体をめぐることになってしまふ。また仏教用語では「一念三千」という言葉があるが、ひとつの念は天・地・人それぞれ千の念と繋がっている事を表している。それはひとつの念が全ての念と繋がっていることを象徴的に表している。現実的にはその念の間のつながりの強さによって我々の認識力がその繋がりを把握するかどうかである。

実はSNSで調べる情報も、ひとつの単語と同じで、社会全体の情報



結局辞書全体をめくることになってしまう

や知識全てと密接に関係している  
である。その事を認識した時に、い  
かに全体の情報・知識を身に付けて  
いるかによって、その理解の程度が  
定まることを理解する事になるの  
だ。

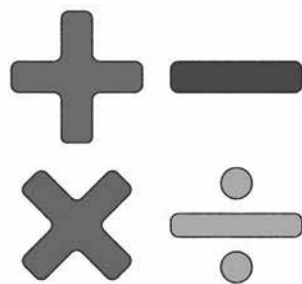
しかし、ひとりの人間が古今東西・  
天上天下の全ての情報・知識を身に  
付けるのは全く無理な話である。そ  
れ故に必ず限界があるが、ひとつの  
情報をよりよく理解するには、でき  
るだけ教養を身に付け、知識の体系

性をよく理解しておく事、そして時  
とともに変わらない普遍の知識を十  
分に知っておくことが大切である。  
ひとつの情報の背後には無限の奥行  
きがあるのだ。

知識・情報にしても、易即ち  
常にその内容が変化していく類のも  
のと、不易即ちその内容が全く  
変化しない情報・知識の両方  
がある。例えば初等教育で学ぶ四  
則演算の意味は我々の住む宇宙の  
中では変化しないし、円周率(π)  
の値も変化しないであらう。

しかし、社会科学的な用語の意味  
は、時代の経過の中で学問的に変化  
するし、一般の人々が用いる常套句  
も時代とともに変化していく。最近  
では「映える」という言葉が若者向  
けに流行っているが、これ等ひとり  
ひとりがカメラマンになり、パチパ  
チと写真を撮り、それを自分の記録  
にするとともに、周りの人に送信し  
合っていて、そこでは「映りばえ」  
が気になるので、まさにインスタグ  
ラム向けの使いやすい言葉として  
「ばえる」が多用され始めたのであ  
らう。

以上のように情報伝達機器やシス



四則演算。は我々の住む  
宇宙の中では変化しない

テムのパーソナルユースは情報入手  
手段の発達により、自分の嗜好しや  
すい、あるいは興味を抱いた情報に  
集中的にアクセスすることができ  
るようになっていくのが今日である。  
十分な情報を判断し、理解する下地  
を持った上で、ひとつの分野に集中  
するのは良いが、その下地が十分に  
できていない状態で、情報アクセス  
への恣意性をかなり強めてしまうと  
大変に危険である。

さて、そうした下地を供える努力  
をするうえで何が役立つであろう  
か？私はその為に、新聞や週刊誌等  
のマスメディアをくまなく読むこと  
は大変にメリットがあると考えてい  
るし、実際に実践してきた。その点  
に関して次にもう少し話を進めよう



新聞1部の情報量の巨大さ

う。

### 新聞1部の情報量の巨大さ

私は毎日、新聞を隅から隅まで読み、重要な記事はiPadで記録し、今いちど後から読み直すか、記録し

て保存しておく。そして毎日驚くのは、たった1日の朝刊1紙の中に何とも巨大な量の情報が掲載されている事である。残念ながらその事に気付いている人は意外と少ない。

そして最近の若い人達はテレビや

新聞は信用できないという。確かにそもそもテレビ局や新聞社そのものが体制側に資本を抑えられているし、記事も番組も体制やスポンサーにコントロールされているので、ニュースや解説には意図的な虚偽情報が多いと語り、SNSのみの情報で過ごしている人が多いのが実情である。果たしてどうなのだろうか？

確かにその認識は必ずしも間違っていない部分もある。少なくとも紙面の構成や記事の採用・不採用、あるいは番組の制作にしても制作者の意図が入っているので、一定程度のバイアスがかかっているし、その組み合わせによって一定程度の特定の思考が隔たって醸成されることになるだろう。真の意味で偏りのない記事やニュースなどそもそも原理的に人が関わる限り有り得ないのだ。

しかし、少なくとも今日に於いては第2次大戦時の軍部のようにウソや虚偽の報道を正面切ってすることはない。内容の一部を省いて部分のみを切り出す事はあっても、ウソはないと判断して良いであろう。何故なら、今日は容易にその内容を検証する社会全体のシステムが発達して



今日ウソや虚偽の報道を正面切ってすることはない

いるからである。例えば、ウクライナや中東の情報は、仮に合成写真を作って用いても、グーグルアースでかなりの精度で真実の姿を誰でもが見ることができるとだ。

さて、そうだとすると新聞を読んだりテレビを見たりする時に必要なのは何か。それは前述の如くそれらの報道内容を自分で判断する能力である。それと共に自分なりに報道された内容により情報を加えて、正しい全体像を自ら完成する能力を持っているかである。その力が備わっていれば、テレビも週刊誌も新聞も、あらゆる情報が価値を生み出す。知の栄養素材」と成り得るのである。

しかし、そうした力を涵養しきれない人々にとっては、受け身的に報道されたものをそのままキャッチするしかなくなってしまう。そうだとするとマスメディアの報道を問題ありと言える側面も有ることになる。さて、もし自分の教養を高めようと思ったら、マスメディアを活用するのも一方法である。

まずいったん自分の判断を停止して（エポケー）、新聞を隅から隅まで、そして週刊誌を丸々全部読んで

みて欲しい。その作業をすることによって、新聞・週刊誌の情報がいか

に巨大かを認識することが出来る。自分の関心の無かった側面もそこに掲載されていることを知ることになるだろう。実際にここでその一例を示してみよう。私が読んだ令和7年（2025年）9月26日の日経新聞朝刊の中から、私が参考にした記事を挙げてみよう。

- ①クラリベイト引用栄誉賞に寒川賢治氏と児島将康氏―ノーベル賞の登竜門
- ②工作機械関税、米政府が調査―日本
- ③自動運転から日本の再攻勢―トヨタ「ウーブン・シティ」始動・異業種連携20社参画
- ④ソフトバンクG・孫氏「A」で車に大変革―英出資先の車に試乗
- ⑤A-I相場建材・広がる恩恵―メモリー老舗マイクロン・テクノロジー社の株価高騰
- ⑥銅価格急騰、最高値が視野に―鉱山事故で鉱石不足強まる
- ⑦エコノミスト360度視点―最新研究が示すA-Iの仕事への影響
- ⑧NTTあえてテレワーク―在宅主

体5万人・単身赴任も解消

⑨ロシア戦時経済疲弊―今年の成長率予測1%下げ

⑩戦争解決への「措置」要求―米國務長官ロシア外相と会談

⑪モルドバ選挙ロシア干渉か―親欧米政権の弱体化狙う

⑫中国人民元高を許容―米関税の緊張緩和10カ月ぶり高値圏

⑬40年債・応札倍率2.6倍―半半ぶり高値水準財政の懸念後退

⑭高関税時代の勝者とは―米中対抗、不安定な均衡

⑮庶民も金投資で資産防衛―インドネシア経済不安定化で価格上昇

⑯製鉄用石炭2年で半値に―インド・中国の需要不振

⑰国内金が最高値―小売り1万9814円で史上最高値を更新（田中貴金属）

⑱ブーチン氏の危険な賭け―領空侵犯、NATO結束試す

⑲サウジ、原油7カ月増産の妙―軟調相場放置長期需要狙う

⑳鳥獣被害―共生圏を再構築せよ

㉑コメ政策と食料安全保障―「令和の米騒動」で浮かんだ論点

㉒岸田前首相襲撃の被告―2審も懲

役10年

㉓欧州文化首都を歩く―世界の共存・鬼太郎に学ぶ

㉔マンション賃料最高―8月東京23区転居需要なお強く

㉕賃上げ求人への重荷に―広告件数8月4.9%減

㉖ガソリン店頭価格3週間連続上昇―175.3円に

㉗ハイデ日高、営業益最高―「日高屋」値引きフェア奏功

㉘アシックス「オニツカタイガー」―株主優待にEC割

㉙東洋建、上場廃止へ―大成建によるTOB完了

㉚食ベログ年間予約1億人―開設20年、インバウンドにも浸透

ここに示した内容だけでも盛沢山なのに、この記事以外にも更に同数以上ある。更にこれらひとつひとつの記事の詳細とデータが掲載されている。何ともしごい情報量である。日経新聞は経済紙なので記事の内容が経済重視であるが、他の新聞もそれぞれの特色をもって記事を構成している。

たった200円で、これだけの情報を入手できるのである。凄いなと思



## 最近感じている事 日々の新聞や週刊誌の情報量の凄まじさ



ひとりひとりの記者は全力で事実を報道しようとしている

ここに示したたった1日の朝刊の記事のために、どれ程の記者が働き、記事を書いていくか想像してみたい。自分1人で収集しようとしたらその1000分の1、いや1000分の1の情報も集められないだろう。新聞1紙といえども、巨大な組織力で造られている。

それを繰り返すうちに、1面の記事の内容から株式がどう反応するかや、社会にどういう影響を与えるかの因果関係を類推することができくるようになる。まさに世の中の動きの連動性に詳しくなるので、色々な事を先読みできるようになっていく。事実、糸川先生の読みは素晴らしかった。

そうした利用法もひとりひとりが工夫して産み出すと、たった1日の新聞が極めて貴重な情報源となるし、その人の活動にも大きなプラスになるのである。安易なマスメディア批判よりも、仮に問題があったと

わないだろうか。私はこうした紙面を毎日チェックすると共に、前述の如く注目する内容を丹念に読み返すと同時に今まで分野ごとにクリップしたファイルにその記事を入れ、タイムシリーズとしていつでも閲覧できるようにしてある。それによって変化の具合や時として矛盾点も発見する。

要は読む側の方にどれだけの情報の読解力・判断力・批判力があるかである。私の個人的体験として、新聞批判をする人で、本当に新聞を読みこなしている人に会ったことがない。何となくマスメディア批判の声に便乗しているだけで、真に自ら新聞と格闘して、その上で新聞批判をしている人は少ない。

ところで私の恩師のロケット博士糸川英夫教授は、朝家を出る前に新聞の2つの別々の紙面から気になる記事のタイトルを選んで、職場に着くまで「風が吹けば桶屋が儲かる」の話の如く、その2つのタイトルを結びつける訓練を毎日していた。例えば1面の政治欄の中からのタイトルと三面の経済欄のタイトルとを選んで、ここで示した記事で述べれば、「AI相場建材・広がる恩恵―メモリー老舗マイクロン・テクノロジ―社の株価高騰」と「プーチン氏の危険な賭け―領空侵犯、NATO結束試す」の2つの記事を記事の関連性を何とか結び付ける作業を行うのである。

これだけの情報を入手できるのだ



してもそれを前提として自分なりの活用法を編み出した方が遥かに利口である。たった2000円位の朝刊の記事がどれ程の宝になるか今一度再考してほしいものである。

## ひとつの新聞の中に 入っている情報量の凄まじさ

新聞の紙面は新聞ごとに異なるので一様ではない。しかし、殆どの新聞は次のような紙面を持っている。

- ① 政治
- ② 経済（一般トピックス）
- ③ 経済（株式欄）
- ④ 社会
- ⑤ 文化（ニュース・小説）
- ⑥ スポーツ
- ⑦ 論説欄、解説欄
- ⑧ 社説欄
- ⑨ 死亡欄
- ⑩ 人事欄
- ⑪ 海外欄（全体に分散していることが多い）
- ⑫ 広告欄
- ⑬ 特集記事
- ⑭ テレビ番組欄
- ⑮ 技術欄

## マスメディアと

### ローカルメディアの併用

「AIを用いての

チェックが効果的」

これからの加速度的変化のスピードが加速度的に増していき、「不易」よりも「易」の方が圧倒的に多くなる時代に求められるのは、ひとつは「倍速」以上で情報を吸収する能力と、その吸収した情報を体系化したものに総合化していくことである。そのベースとして教養の積み重ねと経験・体験が求められるのだが、今までは情報が次のように締められていた。

- ① デイリーのニュース（テレビ・新聞）
- ② 若干縮めた週刊誌
- ③ もう少し詳しく体系化した月刊誌
- ④ 全体を纏め整理した書籍・報告書・論文

今日はこれら殆どが全てYouTube等の中で取り込まれているので誰でも見ることが可能である。しかし、私の見る限りに於いて、最大の問題はそこに登場する情報の審査



今日はこれら殆どが全てが誰でも見ることが可能である

機能がないので、極めて直感的・感覚的判断の下に述べられた裸のままの情報が多いことである。

また、纏めた考えにしても、十分な論考と他者との対論による修正、それらの繰り返しによる推敲という手順を踏まない話が多いし、自分の考えに対峙する他の考えに触れることも少ない。ある意味で、社会そのものが加速度的変化をしていて、百年一日ではなく、三年一昔や分進秒歩の時代にはニュースにしても解説

にしても、じつくりと物事を進めるという作業は難しいのかもしれない。

しかし、だからこそ、あらゆる分野を報道してくれているマスメディアが大切なのである。私なども、まず新聞を拡げて記事全体を見回して、今日のニュースの中で何がいちばん重要かをチェックし、そこから順次読み進め、重要でない所は軽く読み流し、次いで論説や社説をしつかり読むようにしている。

## 最近感じている事 日々の新聞や週刊誌の情報量の凄まじさ

実は毎日、新聞を読みテレビのニュースを見ていると、その日の新聞を読むにしても、テレビを見るにしても、実はその内容が連続しているものも多く、記事や報道の中のキーワードや新しい部分のみを知るだけで自然と全体像が判ってくることが多い。

まさに継続は力なりであり、同じモノを連続して続ける事の効用は大きいのだ。さて、ここで私が述べている事は、実はたったある日の朝刊一部を見ても、週刊誌全体を見ても、そこには莫大な情報が、多くの記者や編集者の努力によって盛り込まれているという事である。

確かに個々の記事に関しての質の問題や偏向の問題もある。しかし、それは読む側の能力に関わるので、簡単にその価値を論ずることは難しい。

だが私個人の見解では、今日という超加速度時代には、パーソナル情報入手手段と共に、幅広く情報を提供してくれているマスメディアを併用して批判的に活用することが望ましい。そしてできるならば、自分の得た情報を自分なりに理解したその



チャットGPTを用いて比較検討してみるとよい

内容を「チャットGPT」を用いて比較検討してみると良いと思う。

確かに「チャットGPT」の解答はまだ完全と言えないまでも、個々ひとりひとりの人知ではなく、データとして入手されている人類知が入っており、ひとつのテーマに関しての読みこなす情報は全く桁違いであり、人知で対応するのは難しい。逆に、全く新しいデータの入力されていくことに対しては、普通に

質問してしまうと答えは絶対的に普通の答えしか返ってこないのだ、AIが全く新しい考えを抽出するように配慮して質問そのものをせねばならない。そう質問すればそれなりに答えは返ってくるだろう。

ここで述べたいことは、私が最近感じている若い人々のパーソナルメディアへの偏重傾向への不安であ

り、その対策としてマスメディアで視野を広げ、AIを活用して自らの持つ情報と考え方へのチェックが効果的であろうという示唆である。

既にやられている人たちもいる事であろう。より多くの人が、こうした作業をして、自らの得た情報と自分の考えをより正しく、深いレベルへ挙げていくって欲しいと思う。

